

コロナ禍で必要な受診を控えていませんか？

～過度な受診控えは健康上のリスクを高めます～ 健康づくり課 ☎94-4609

市内の感染症患者の発生状況
患者数(累計) 34人
※10月8日現在

感染症を心配して、医療機関に行くことを控える傾向が強まっています。厚生労働省によれば全国の受診者数(5月)は前年から20.9%減りました。中でも小児科の減少幅は46.1%でした。厚生労働省ホームページ「上手な医療のかかり方.jp」(右のQRコードからご覧になれます)を参考に、適切に受診しましょう。



上手な医療のかかり方.jp

持病の治療やリハビリは継続することが大事です

自己判断で持病の受診を控えたり、処方薬を中断したりすると、重症化したりウイルスに対抗できない状態になったりする恐れがあります。またリハビリは可能な範囲で続けることが大切です。



遅らせないで、子どもの予防接種と健診

予防接種の標準年齢は、感染症にかかりやすい年齢などをもとに決められています。時期を遅らせると免疫がつくのが遅れ、重い感染症になるリスクが高まります。お母さんからもらった免疫が減っていく生後2カ月ごろから計画的に予防接種を受け始めることは、赤ちゃんを守るために、とても重要です。

乳幼児健診は、子どもの健康や成長の状態を定期的に確認する大切な機会です。適切な時期にきちんと受け、育児で分からないことがあれば、遠慮せずに医師や保健師、助産師などに相談しましょう。

症状があるときは、かかりつけ医に相談を

熱やせき、腹痛などは感染症の症状とは限りません。それ以外の病気の可能性もあるため、タイミングを逃すと最適な治療が受けられなくなる場合があります。病気の早期発見・治療のためにも、まずはかかりつけ医(地域の診療所)に相談を。なお、発熱がある場合には、事前に電話で症状を伝え、受診方法について指示をもらうようにしましょう。



歯の痛みなど口内のトラブルがある人は、我慢せず歯科医院を受診しましょう。

医療機関は感染防止対策を万全に行っています

医療機関は感染症の専門家で、ガイドラインに基づいて対策に取り組んでいます。さらに、患者に分かりやすいマークでの注意喚起や自主的ガイドラインなどの取り組みによって、各機関で徹底した感染防止対策が行われています。

引き続き、予防対策の徹底を

感染症のさらなる拡大を防ぐには私たち一人一人の心掛けが欠かせません。「新しい生活様式」を取り入れながら、基本的な予防対策を継続しましょう。

距離の確保



マスクの着用



手洗い・消毒



小まめな換気



行動の記録



市制施行 シリーズ 50周年記念 アーカイブ 新聞記事で振り返る あの日、あの時

第1回「県下15番目の市として誕生」

伊勢原町は地方自治法の一部を改正する法律に伴い、「人口3万人を超える」などの要件を満たしたことから昭和46(1971)年に市制を施行しました。県下15番目の市「伊勢原市」が誕生。そして令和3年3月1日、市制施行から50周年を迎えます。これを記念し、神奈川新聞社の協力により当時の新聞記事から市の歩みを振り返りたいと思います。

紹介するのは、昭和46(1971)年～55(1980)年の10年間。人口が急増する中、公共施設の建設が進むなど、市の礎が築かれた期間です。

第1回は、「市制施行」について掲載された昭和46年3月1日の記事です。

県央の核都市目ざして 第一歩

町から市へ。中郡伊勢原町がきょう一日から「神奈川県伊勢原市」として正式にスタートする。県下で十五番目の市昇格だが、「市役所」への衣がえ、内部機構改革も順調に終わった「新しい夜明け」に「祝伊勢原市」と書き込まれた歓迎塔、横断幕などが「市内」メインストリートに掲げられ、いま伊勢原市は「新市誕生ムード」がいっぱいだ。(後略)[神奈川新聞]

記事の
中身は



提供 神奈川新聞社

※当時の紙面記事をそのまま使用(一部記事省略)

当日は市内各所で記念行事が行われました

将来ビジョン「県央の核都市を目指す」を掲げ、産声を上げた伊勢原市。市制施行当日には農業協同組合の有線放送を用いた市長メッセージのほか市役所の開所式、小学校での花火打ち上げなどを行い、市全体が祝賀ムードに包まれました。1周年を迎えた昭和47(1972)年3月1日には、市民投票で決定した市の木「しい」、花「ききょう」、鳥「やまどり」を制定しました。

◇次回は「伊勢原道灌まつりがスタート」を紹介します

ほっと ニュース

HOT NEWS

大山詣りを体験・テストツアー

日本芸能実演家団体協議会が、日本遺産「大山詣り」を体験する「NOBODY KNOWS プロジェクト2020 伊勢原テストツアー」を実施。今後のツアー企画に向けて、宿坊体験や歴史講座、三味線・日本舞踊のライブを楽しみました。(9月15日)



高部屋神社の伝統神事

海の様(住吉三神)をまつる高部屋神社。同神が上陸したとされる照ヶ崎海岸(大磯町)で、氏子が海水や海藻、浜の砂を採取する「汐汲み神事」が行われました。採取した砂などは、9月20日の例大祭で参道を清める「浜砂撒き」をはじめとした神事に使用されました。(9月17日)

まけるな伊勢原!&イセハライチ

NPO法人イセハライチ主催のイベントが総合運動公園で行われました。市内外からキッチンカーを含む18店舗が出店。来場者は感染症対策を行いながら、採れたて野菜や地域特産品の買い物、ジャズの演奏などを楽しんでいました。(9月27日)



日向の彼岸花が今年も咲きました

かながわの花の名所100選にも選ばれている秋の風物詩、日向地区の彼岸花。例年よりも開花が遅れましたが、真紅の花が木々の緑や稲穂の黄金色と見事なコントラストを演出していました。